

# 「チームいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～



## 【育成する地域人材像】

自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、  
 地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる **地域に根ざした人材**

## 地域課題解決型キャリア教育

**産業社会と人間**  
 地域魅力マップ作り  
 「道の駅」で掲示・評価  
 ↑  
 地域住民・行政担当者との懇談  
 街頭インタビュー

**キャリアデザイン**  
 過疎地域での仕事・生活を考察  
 ～豊かさとは？～  
 ↑  
 地元の起業家・企業人との懇談  
 U&Iターン者と懇談

**いいなんゼミ**  
 自身の提案に基づく実践  
 「いいなんゼミ」発表会  
 ↑  
 地域課題研究  
 (生徒自身でテーマ設定)  
 仲間と対話、活動を創造

**<1年生>**  
**産業社会と人間**  
 各教科

**<2年生>**  
**キャリアデザイン**  
 (学校設定科目)  
 各系列での学び

**<3年生>**  
**いいなんゼミ**  
 (総合的な探究)  
 各系列での学び

～資質・能力～  
 対話力  
 追究力  
 創造力  
 発信力

**各教科・科目**  
 「グループワーク」  
 スキルの向上

課外  
**道の駅コラボプロジェクト**  
 飯南・飯高地域の魅力発信  
 ↑  
 各系列、部活動で開発・制作した  
 作品の出品、販売  
 (緑茶ラテアートなど)

**地域のフィールドワーク**

**各系列の特色を生かした地域貢献の学び**  
 【郷土・環境系列】松阪赤菜等、地域特産物の栽培⇒商品化、付加価値化を探究  
 【介護福祉系列】地域の福祉課題を調査⇒行政・福祉施設と改善に向けた懇談、提案  
 【コンピュータ系列】マーケティング手法を学習⇒販売計画、販売促進に活用  
 【総合進学系列】大学との連携⇒市議会等、地域の現状・課題を学び、改善提案・発表



【校門から校舎へと続く杉並木】

地域課題解決型  
 キャリア教育推進委員会(仮称)  
 (運営指導委員会)

## 検証・助言



【「飯南」Tシャツ】



【緑茶ラテアート】



連携

地域人材育成コンソーシアム・いいなん(仮称)

地元行政	地元企業	地域住民
NPO	大学	連携中学校

支援



ふりがな	みえけんきょういくいいんかい	ふりがな	みえけんりついいなんこうとうがっこう
管理機関名	三重県教育委員会	学校名	三重県立飯南高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：三重県教育委員会

代表者名：廣田恵子（教育長）

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：三重県立飯南高等学校

学科： 普通科 専門学科 総合学科

校長名：土方清裕

### 2 取組内容

地域が抱えている諸課題の解決や持続可能な社会の実現に向け、地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とし、必要な資質・能力を育むためのカリキュラム開発に取り組んでいく。

＜地域に根ざした人材に必要な資質・能力＞

- ①地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力【対話力】
- ②地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力【追究力】
- ③自らの技術を磨き、他者とかかわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた取組や活動を創造する力【創造力】
- ④地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力【発信力】

＜カリキュラム開発の方向性＞

- ①総合学科の柱に位置付けている3科目、「産業社会と人間（1年次必履修科目）」、「キャリアデザイン（2年次学校設定科目）」、「いいなんゼミ（3年次総合的な学習の時間）」を再構築し、3年間の学びの連動を強化して、地域課題解決型のキャリア教育の充実を図る。
- ②4系列（郷土・環境、介護福祉、コンピュータ、総合進学）の特色を活かした地域貢献のための学習活動の充実を図る。
- ③各教科・科目で地域の題材やデータを扱うなど教科横断的な学習を実施し、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。

#### \* 地域課題解決型キャリア教育

地域に魅力や誇りを持ち、地域に貢献する将来を思い描き、社会の変化に対応できる「生きる力」を育むことを目的とした教育。これまでのキャリア教育が、望ましい職業観・勤労観の醸成に取り組みつつも、卒業後の進路指導に力点が置かれ、社会に出てから必要とされる資質・能力の育成への視点が十分とはいえない状況にあったことから、生徒が地域を学び場として地域課題や地域の特色ある産業等を題材に、地域住民や職業人と関わりながら実践活動を行う中で、課題解決に取り組む、学習と社会を結び付けた学びを行っていく。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

・「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」

機関名	機関の代表者名
三重県立飯南高等学校	土方 清裕（校長）
松阪市企画振興部	野呂 隆生（地域振興担当理事）
松阪市飯南地域振興局	榊原 典子（局長）
松阪市飯高地域振興局	廣本 知律（局長）
松阪市教育委員会	中田 雅喜（教育長）
松阪市西部教育事務所	中林 穰太（所長）
松阪市立飯南中学校	山下 隆久（校長）
松阪市立飯高中学校	森井 義和（校長）
松阪市粥見住民協議会	中野 孝是（会長代理）
株式会社三ツ知製作所	堀出 一（業務課長）
有限会社深緑茶房	松本 浩（茶長）
叶林業合名会社	堀内 楓子
有限会社上野屋	佐々木 幸太郎（代表取締役）
NPO法人 i sierra（アイシエラ）	太田 覚（理事長）
三重大学地域イノベーション学研究所	西村 訓弘（副学長・教授）
三重県教育委員会事務局教育政策課	上村 和弘（課長）
三重県教育委員会事務局教育政策課	西 達夫（主幹）

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」や「飯南高校活性化協議会」の会議の開催により、定期的に地域人材が育てられているのかどうかを検討・共有する。また、家庭や地域とも教育目標や育成すべき能力等を共有するため、月1回の活動報告をホームページや学校通信等で公表する。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

飯南高等学校において、地域人材育成に資する地域課題の解決に向けた教育実践（地域課題解決型キャリア教育）の研究開発を進めるにあたり、育成を目指す地域人材像を共有し、その育成に向けたカリキュラムや具体的な取組について、協議、支援・協力等を行う。

- 地域課題解決型キャリア教育のカリキュラム開発にかかる協議
- 生徒への助言や教員への指導・助言を行う講師の派遣
- 地域産業のフィールドワークや地域の施設を活用した活動等の訪問先の開拓・紹介
- 地域住民等と協働した生徒活動につなげるための支援策・PR方法の検討 等

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

・カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型）

①江森真矢子

元リクルート『キャリアガイダンス』編集者で全国の事例に精通し、元岡山県和気町地域おこし協力隊として自らもコーディネーターとして活動した経験がある。

②浅野吉英

元兵庫県立西宮今津高等学校教諭として、地域と協働した課題解決型学習を行っていた実践家であり、総合学科の推進や「産業社会と人間」の担当経験が豊富である。

この2名を起用し、校内の「地域協働カリキュラム推進委員会」の構成員として、平成30年度までに進めてきた地域と協働した取組を発展・深化させるためのカリキュラム改善や、地域人材育成のために新たにカリキュラムに位置付けることが効果的な協働活動の提案などについて指導・助言を受ける。

## (5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

松阪市が飯南地域・飯高地域の振興等のため令和元年度から採用の「地域おこし協力隊」が、本事業における地域協働学習実施支援員の役割を担う。地域と協働した活動がカリキュラムに位置付けた課題解決型のキャリア教育の目標に迫ったものとなるよう、「地域協働カリキュラム推進委員会」にも参画し、委員会での協議をふまえながら、フィールドワークや地域での具体的な実践等の活動内容を吟味・構築するとともに、地域等関係者との調整を行う。

## (6) 運営指導委員会の体制

本事業における運営指導委員会の役割を、県立高等学校における地域課題解決型キャリア教育の推進を図るため管理機関が設置した「地域課題解決型キャリア教育推進委員会」(学識経験者、高等教育機関、産業界関係者、コーディネーター代表、市町行政関係者、高等学校代表者、管理機関の担当者で構成)が担う。飯南高等学校における取組が、本事業の目的・目標の実現に向けた実践となっているかの検証や改善の方向性の提案などを行い、事業のPDCAサイクルを構築する。

## (7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

成果発表会として「いいなんゼミ発表会」や「いいなんゼミ」出前発表会を実施し、連携型中高一貫教育を実施している中学校や保護者・地域に向けて発信する。また、「いいなんゼミ発表会」等を参観したコンソーシアム関係者等へのアンケートや生徒アンケート等によって得られた、卒業までに生徒に育みたい資質・能力(対話力・追究力・創造力・発信力)の定着状況、松阪市内の事業所等に就職した生徒の割合、将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合(松阪市のうち飯南・飯高地域のみを含む)等について、「地域課題解決型キャリア教育推進委員会」において評価・検証を行う。

## (8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

### ① 高校生地域創造サミット

管理機関では、高校生が地域のことを主体的に考え行動する意欲や地域とともに課題解決に取り組む姿勢を育むことを目的に、平成29年度から、県事業「未来を拓く職業人育成事業」の中で、県内外の高校生を対象とした「高校生地域創造サミット」を開催している。

高校生地域創造サミットの中で、飯南高等学校や県外先進校がそれぞれの学校における取組を発表、交流する機会も設定することで、飯南高等学校の参加生徒が、学びを発信する場、新たな視点や刺激を得る場としていき、学校での取組の質的向上につなげていく。

### ② 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業との併走

管理機関では、平成31年度から3年計画で、「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」を実施する。この事業では、県内9校をパイロット校として、地元市町の協力を得ながら地域と協働し、地域を学び場とした取組を推進し、それぞれの地域に地域課題解決型キャリア教育を根付かせていく。「地域課題解決型キャリア教育推進委員会」で各学校の取組を検証し、改善点を明らかにするほか、各地域で開催する成果発表会の参観や成果の共有などを通じて、取組の質的向上を図っていく。この事業の取組と飯南高等学校で実施する本事業を併走させ、それぞれの学校が互いの取組に学び合い、取組を発展・深化させる体制を作っていく。

### ③ 教員の人事面における配慮

飯南高等学校の経営方針に資するため、校長の意見を尊重しつつ、教職員の適正配置に努めるとともに、教職員が効果的に研修できるよう支援する。

## (9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

令和3年度以降、飯南高等学校と飯南・飯高地域の松阪市立小中学校とで、「小中高連携型コミュニティ・スクール」としていく方向で、平成29年度から共同で調査・研究を進めている。その際には、「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」を母体に飯南高等学校運営委員会を設置し、地元行政をはじめとした運営委員会構成団体の支援を得ながら、地域学校協働活動を引き続き推進していく。

また、松阪市においては令和2年度改訂予定の総合計画において、飯南高校の取組と松阪市の中山間地域の振興施策との連携を図っていく旨を記載する方向で検討中である。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	みえけんりついいなんこうとうがっこう				②所在都道府県	三重県
2019～2021	①学校名	三重県立飯南高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制総合学科234名 1学年2クラス定員を3クラスに展開	
総合学科	80	80	74		234		
⑥研究開発構想名	「チームいいなん」の挑戦 ～未来を切り拓く“地域に根ざした人材”育成～						
⑦研究開発の概要	総合学科の柱の3科目（「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」、「いいなんゼミ」）を再構築し、3年間の学びの連動を強化して地域課題解決型キャリア教育の充実を図る。また、4系列の特色を活かした地域貢献のための学習活動、各教科・科目での地域題材・データを扱った教科横断的な学習の実施により、日常的な学びと地域・社会との連動を企図する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>本事業では、地域を学び場とした地域課題解決型のキャリア教育の実践を通じて、自ら考え挑戦し、多様な価値観を持つ人々と対話・協働しながら、地域への愛着を持って地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる、地域に根ざした人材を育成することを目的とする。その目的とする人材に必要な、4つの資質・能力（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成していくことを目標とする。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>・現状の分析</p> <p>飯南高校の所在する松阪市飯南町と連携型中高一貫教育を実施している中学校が所在する飯高町では、近年急激に人口減少が進行している。さらに今後も減少が拡大することが予想され、このままでは地域住民と学生が交流する機会の減少、文化・産業資源の継承が困難となるなど地域の活力が低下し、地域とともに学校が共倒れになる可能性が高い。</p> <p>このような中、平成30年9月から本校が中心となって連携中学校と協働し、地域を若者で盛り上げて活性化していこうとする「道の駅コラボプロジェクト」を始めた。この取組を通して、地域活性化にかかる本校への地域からの期待は高まりを見せてきている。</p> <p>また、地域へ飛び出した活動が、生徒の成長に有意義であることを教員集団も再認識する機会となった。しかし、この取組は生徒の有志活動であり、活動メンバーが一部に限定されたものであった。</p> <p>そこで、このような学びの場を生徒全員に提供し、学校の学習活動を地域と連動させていくことで、学校と地域が一体となって過疎化地域の将来を変えていくことに繋がるものと考え、次の仮説を設定した。</p>					
		<p>・研究開発の仮説</p> <p><b>仮説①</b></p> <p>地域へ飛び出した学習活動を学校全体で取り組むことで、世代を越えた人々との交流により、対話力が身に付くとともに、地元への貢献の喜びを経験することで一層の地域愛が育まれる。</p> <p><b>仮説②</b></p> <p>総合学科の柱に位置付けている3科目（「産業社会と人間（1年次：必履修科目）」、「キャリアデザイン（2年次：学校設定科目）」、「いいなんゼミ（3年次：総合的な学習の時間）」）や系列科目において、地域連携活動を推進することで、伝統文化や地域産業を再認識し、課題や改善点を把握・整理しながら追究することや、企画・提案することを通じて、課題解決に向けて創造する力・効果的に発信する力が育まれる。</p> <p><b>仮説③</b></p> <p>問いの設定や仮説を立てての学習、学習前後の振り返りの言語化等、授業改善を組織的</p>					

	<p>に行うことで、日常的な生徒主体の学びを向上することができ、正解が一つでない地域活動への学びを高めることができる。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p><b>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b></p> <p>ア 総合学科の柱の3科目における実施計画</p> <p>1年次「産業社会と人間」（総合学科必履修科目）では、地域へ飛び出しフィールドワークを通して飯南町・飯高町の現状や課題等を聴き取り、地域の魅力マップの作成や将来の地域への提案を行う。</p> <p>2年次「キャリアデザイン」（学校設定科目）では、地域の企業人、“本気の大人”との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える。</p> <p>3年次「いいなんゼミ」（総合的な学習の時間）では、1・2年次の活動で生まれた問題意識や課題について、地域課題研究ゼミを設置しながら実践的で創造的な探究活動を行う。</p> <p>イ 系列科目における実施計画</p> <p>地域で栽培している作物や地場産業について、地域の生産者や地元企業等と協働して商品化や付加価値化を企画・提案する。また、地域の福祉課題について行政・福祉施設と連携して実践を踏まえながら課題解決策を模索するなど、地域と連携して新たな価値を創造していく。</p> <p>ウ 探究的な学びを進めるステップ</p> <p>KJ法やワールドカフェ等の基本的なグループワークスキルを授業内に取り入れ、地域に飛び出した際に活用できるよう対話的な授業改善を行い、生徒自身の活用・習得を目指す。そして一斉授業・グループワーク双方のアクティブ・ラーニングを目指し、地域の題材・データを扱いながら、日常的な学びと地域・社会との連動を図る。</p> <p><b>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</b></p> <p>校内に設置する「地域協働カリキュラム推進委員会」を中心として、評価・改善提案を行う。また、「地域人材育成コンソーシアム・いいなん」や「飯南高校活性化協議会」による外部からの評価・改善提案も行い、地域人材が育てられているかどうかの検討を行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>特になし。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成30年度から連携中学校と協働して「道の駅コラボプロジェクト」に取り組み、学びの場を地域へと広げて、地域住民とも対話をしながら、若者で地域を盛り上げて活性化していこうとしている（3回実施）。また、地域課題解決に取り組む「答志島サステイナブルキャンプ」を県内外高校生、大学生、大学教授、行政関係者、関係団体、地域住民等約100名規模で、県内高校と共同主催し、過疎化地域の課題をフィールドワークや対話を通して考え、提案・行動するに至っている。</p>